

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 6月 9日
Date of Application:

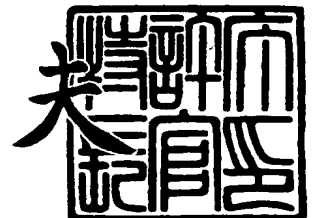
出願番号 特願2003-163299
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2003-163299]

出願人 榊原 明
Applicant(s):

2003年 8月28日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康夫



出証番号 出証特2003-3070329

【書類名】 特許願

【整理番号】 15-169

【提出日】 平成15年 6月 9日

【あて先】 特許庁長官殿

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県三浦郡葉山町堀内 8 6 1

 【氏名】 榊原明

【特許出願人】

 【識別番号】 390021061

 【住所又は居所】 神奈川県三浦郡葉山町堀内 8 6 1

 【氏名又は名称】 榊原明

【代理人】

 【識別番号】 100059236

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 土橋秀夫

 【電話番号】 03-3271-3751

【選任した代理人】

 【識別番号】 100074192

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 江藤剛

 【電話番号】 03-3271-3751

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 014133

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 燃料の燃焼節減装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内燃機関の燃焼設備中に気圧低下の措置を講じ、燃焼温度を高めることを特徴とする燃料の燃焼節減装置。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、燃料の消費の節減を図り排気ガスの地球環境に及ぼす影響を減少させることを目的とする燃料の燃焼節減装置に関するものである。

【 0 0 0 2 】

【発明の背景、従来技術】

本発明者はさきに、特許第 3 3 6 6 2 4 9 号排気ガス浄化装置を発明した。この装置は気圧の変化と沸騰点との物理理論を活用し、高温の排気ガスをノズル排出口を通じ、低気圧中に放出して瞬時の温度低下の作用を活用し、液化現象を生ぜしめて排気ガスの浄化を行うものであるが、本発明はこの理論を逆用したもので、常圧中において発生する燃焼温度は、若し、低圧中に於いて同一条件で燃焼する場合は、高温となるのは、当然であるから、この理論を本発明の燃料燃焼時に活用したものである。

【 0 0 0 3 】

即ち内燃機関の燃焼設備の中に特に圧力低下の措置を講ずれば、燃焼温度を高めるので、自然計算的に燃料の消費量が減少することに加え、また排気ガスも減少することになる。燃料の節減は資源節減の観点からも有益である。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の課題は、排気ガスの地球環境に及ぼす影響を減少させ、燃料資源を節減させることにある。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

本発明の手段は次のとおりである。

【0006】

内燃機関の燃焼設備中に気圧低下の措置を講じ、燃焼温度を高めることを特徴とする燃料の燃焼節減装置。

【0007】

【発明の実施の形態】

尚図1において、燃焼室（ボイラー）1の気圧を稼動中に低下させると温度は上昇し、気圧を高めれば逆に温度の下がる理論は理解できる。また気圧を上げると温度は下降する。尚図1において2は発電用蒸気、3は水槽、4は注水口、5は気圧計器、6は気圧低下排気口、7はオイル注入口計器、図2に於いて8は冷却空気入口、9はバーナー灯油口、10は燃焼空気口、11は排風機、12は排気ガス出口である。尚図1に示す水槽3はボイラー1に於いて燃焼成果を終えた排気ガスに含む油煙を除去するため一応水槽を通過させて排気管に集合し特許第3266249号排気ガス浄化装置に示す図1の排気管に接合し、浄化させることになる。

【0008】

尚燃焼室1の気圧を稼動中に低下させることは、相当技術を要することであり、試験実施の結果は亦その理論は理解困難な面があるが、自然現象として得た一つの実例をあげると、このことは、よくテレビ放映の中、即ちマグマに極めて近いと想像される深海底において、見た目には泡を立てて湧き出る水は極めて熱い筈であると、一応判断するが、海水深度の圧力は1m一気圧であるから、深海の海底の気圧は相当高圧となるので、今回の物理現象では相当低温となるのでカニやエビの様な動物も楽しく活動している。この現実を見れば燃焼室の気圧を下げれば温度は上昇し気圧を高めれば逆に深度が下がる理論がわかる。

【0009】

【発明の効果】

内燃機関の燃料燃焼部における気圧を、事前に引下げておくことで燃焼効率を高める。即ち燃焼温度を常圧発生温度より高温化すれば、必要温度には変化がないため、当然燃える量は減少する。その反面燃焼量が減少するので、燃焼による

本来の排気ガス量を減少することになり、大なる排気ガス浄化並びに天然資源を節約できる効果を奏する。

【 0 0 1 0 】

尚本発明は、本発明の精神を逸脱しない限り種々の改変されたものに及ぶことは当然である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

オイル燃焼部の正面（低圧操作による燃焼装置の簡単な断面図）。

【図 2】

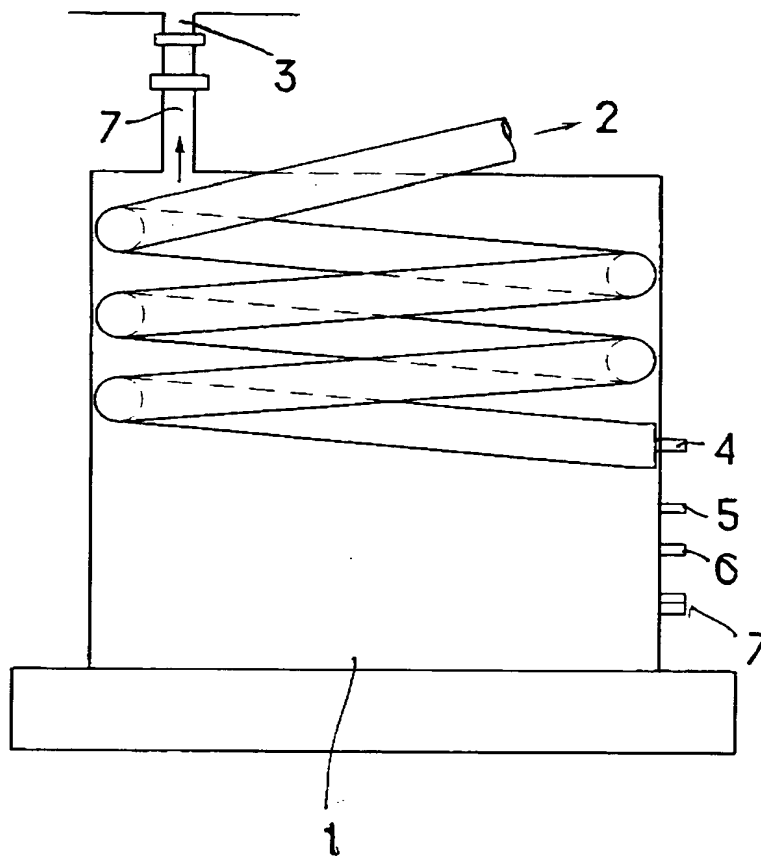
本発明に係る燃焼節約装置（低圧操作によるオイル燃焼装置〔試験実施のもの〕）。

【符号の説明】

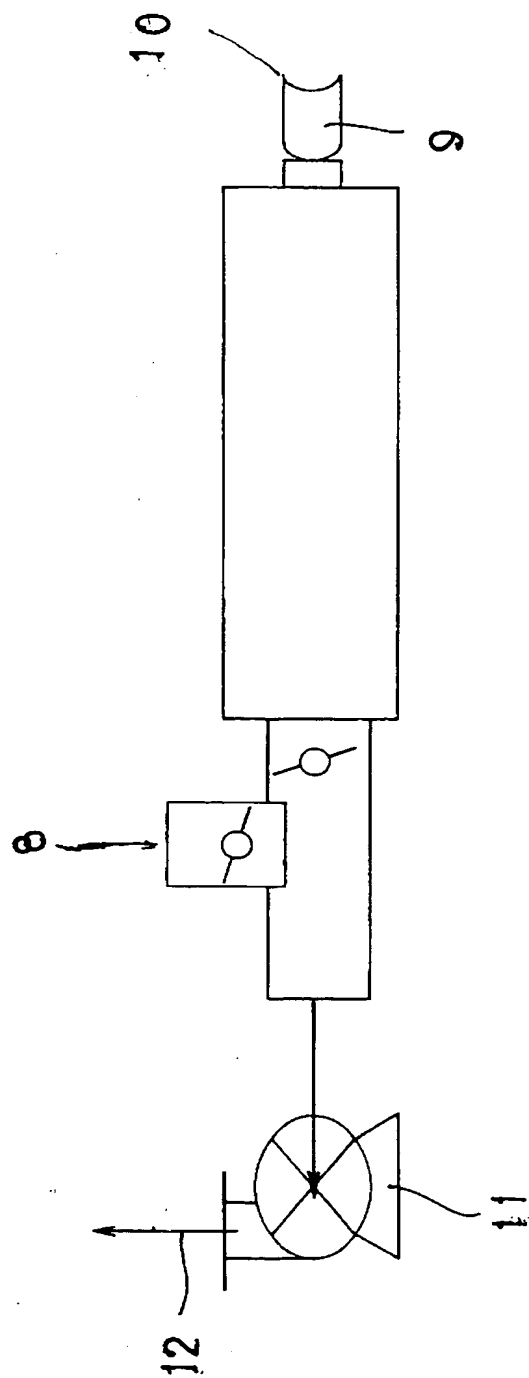
- 1 燃焼室（ボイラー）
- 2 発電用蒸気
- 3 水槽
- 4 注水口
- 5 気圧計器
- 6 気圧低下排気口
- 7 オイル注入口計器
- 8 冷却空気入口
- 9 バーナー灯油口
- 1 0 燃焼空気口
- 1 1 排風機
- 1 2 排気ガス出口

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 排気ガスの地球環境に及ぼす影響を減少させ燃料資源を節約させること。

【解決手段】 内燃機関の燃焼設備中に気圧低下の措置を講じ燃焼温度を高めること。

【書類名】 手続補正書
【提出日】 平成15年 6月24日
【あて先】 特許庁長官殿
【事件の表示】
 【出願番号】 特願2003-163299
【補正をする者】
 【識別番号】 390021061
 【氏名又は名称】 榊原明
【代理人】
 【識別番号】 100059236
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 土橋秀夫
【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 全文
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】 1
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 燃料の燃焼節減装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内燃機関の燃焼設備中に気圧低下の措置を講じ、燃焼温度を高めることを特徴とする燃料の燃焼節減装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、燃料の消費の節減を図り排気ガスの地球環境に及ぼす影響を減少させることを目的とする燃料の燃焼節減装置に関するものである。

【0002】

【発明の背景、従来技術】

本発明者はさきに、特許第3366249号排気ガス浄化装置を発明した。この装置は気圧の変化と沸騰点との物理理論を活用し、高温の排気ガスをノズル排出口を通じ、低気圧中に放出して瞬時の温度低下の作用を活用し、液化現象を生ぜしめて排気ガスの浄化を行うものであるが、本発明はこの理論を逆用したもので、常圧中において発生する燃焼温度は、若し、低圧中に於いて同一条件で燃焼する場合は、高温となるのは、当然であるから、この理論を本発明の燃料燃焼時に活用したものである。

【0003】

即ち内燃機関の燃焼設備の中に特に圧力低下の措置を講ずれば、燃焼温度を高めるので、自然計算的に燃料の消費量が減少することに加え、また排気ガスも減少することになる。燃料の節減は資源節減の観点からも有益である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の課題は、排気ガスの地球環境に及ぼす影響を減少させ、燃料資源を節減させることにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明の手段は次のとおりである。

【0006】

内燃機関の燃焼設備中に気圧低下の措置を講じ、燃焼温度を高めることを特徴とする燃料の燃焼節減装置。

【0007】

【発明の実施の形態】

尚図1において、燃焼室（ボイラー）1の気圧を稼動中に低下させると温度は上昇し、気圧を高めれば逆に温度の下がる理論は理解できる。また気圧を上げると温度は下降する。尚図1において2は発電用蒸気、3は水槽、4は注水口、5は気圧計器、6は気圧低下排気口、7はオイル注入口計器、図2に於いて8は冷却空気入口、9はバーナー灯油口、10は燃焼空気口、11は排風機、12は排気ガス出口である。尚図1に示す水槽3はボイラー1に於いて燃焼成果を終えた排気ガスに含む油煙を除去するため一応水槽を通過させて排気管に集合し特許第3366249号排気ガス浄化装置に示す図1の1排気管に接合し、浄化させることになる。

【0008】

尚燃焼室1の気圧を稼動中に低下させることは、相当技術を要することであり、試験実施の結果は亦その理論は理解困難な面があるが、自然現象として得た一つの実例をあげると、このことは、よくテレビ放映の中、即ちマグマに極めて近いと想像される深海底において、見た目には泡を立てて湧き出る水は極めて熱い筈であると、一応判断するが、海水深度の圧力は1m一気圧であるから、深海の海底の気圧は相当高圧となるので、今回の物理現象では相当低温となるのでカニやエビの様な動物も楽しく活動している。この現実を見れば燃焼室の気圧を下げれば温度は上昇し気圧を高めれば逆に深度が下がる理論がわかる。

【0009】

【発明の効果】

内燃機関の燃料燃焼部における気圧を、事前に引下げておくことで燃焼効率を高める。即ち燃焼温度を常圧発生温度より高温化すれば、必要温度には変化がないため、当然燃える量は減少する。その反面燃焼量が減少するので、燃焼による

本来の排気ガス量を減少することになり、大なる排気ガス浄化並びに天然資源を節約できる効果を奏する。

【 0 0 1 0 】

尚本発明は、本発明の精神を逸脱しない限り種々の改変されたものに及ぶことは当然である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

オイル燃焼部の正面（低圧操作による燃焼装置の簡単な断面図）。

【図 2】

本発明に係る燃焼節約装置（低圧操作によるオイル燃焼装置〔試験実施のもの〕）。

【符号の説明】

- 1 燃焼室（ボイラー）
- 2 発電用蒸気
- 3 水槽
- 4 注水口
- 5 気圧計器
- 6 気圧低下排気口
- 7 オイル注入口計器
- 8 冷却空気入口
- 9 バーナー灯油口
- 1 0 燃焼空気口
- 1 1 排風機
- 1 2 排気ガス出口

特願 2 0 0 3 - 1 6 3 2 9 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[3 9 0 0 2 1 0 6 1]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 1 1 月 1 4 日

[変更理由]

新規登録

住 所

神奈川県三浦郡葉山町堀内 8 6 1

氏 名

榊原 明